

まちのくすりやさん 第65号

今回のおはなし

- 「マイコプラズマ肺炎」
- 「ザ・タバコ」
- 「インフルエンザ」



マイコプラズマ肺炎にご用心

マイコプラズマという細菌による肺炎の流行が続いています。昨年夏から冬にかけて大流行しましたが、今年も増えている上にこれまで使用してきた抗菌剤が効かないケースも増えています。

マイコプラズマは肺炎の原因となる一般的な細菌で、発熱した後に咳が続くのが特徴です。鼻水はほとんど出ません。小学校や幼稚園などで集団感染しやすく、子どもの肺炎の原因では最も多いです。予防用のワクチンは今のところありません。これまで日本では、夏のオリンピックの年と同じ4年に一度、大きな流行がありましたが、その傾向は1988年を最後になりました。というのも、マクロライド系の良く効く薬が使えるようになったからです。しかし、特定の抗菌薬の使用が増えると、耐性菌も出現しやすくなります。耐性菌が急増したことで、11年4月に改訂された日本小児感染症学会などの治療方針では、マイコプラズマ感染が疑われる場合、まずはマクロライド系の薬を使い、2～3日しても熱が下がらない場合は、テトラサイクリン系やニューキノロン系の薬を使うように推奨しています。マイコプラズマに感染しても、自然に治る例はありますが、高熱はつらいうえ、流行すると合併症として髄膜炎などを起こす人の割合も増えてきます。普段から手洗いを励行し、感染し咳が出たら、マスクを着用することを心がけて下さい。

◎マイコプラズマによる感染の特徴

- ・細菌の大きさは大腸菌の1/10
- ・200種以上存在するといわれるが、人に病気を起こすのは1種類
- ・5歳～50歳ぐらいで発症するが、子どもで肺炎になりやすい
- ・潜伏期間は、2～3週間程度
- ・咳やくしゃみなどの飛沫で感染
- ・加熱やせっけんなどに弱い
- ・気管支炎など軽く済むことも多い

◎小児のマイコプラズマ感染症の治療でよく使う主な抗菌薬

薬	薬剤名	耐性菌の有無
マクロライド	クラリスロマイシン、アジスロマイシン	あり
テトラサイクリン	ミノサイクリン	なし
ニューキノロン	トスフロキサシン	なし

ガ・タバコ

COPD 最大の予防は禁煙！！

タバコなどが原因で発症し、ひどい息切れや咳が続く慢性閉塞性肺疾患(COPD)の死者がじわりと増えています。昨年の死者は、日本の死因別9位の約16,600人で、10年前から約3割増加しており、禁煙による予防や早期発見による治療が求められています。COPDは、有害な化学物質や粉じんを長期間にわたって吸い続けることで起きる肺の機能低下や慢性炎症です。酸素を交換する肺胞の破壊や気道の炎症などで、たんなどの症状が表れ、重くなると激しい息切れや呼吸困難に陥ります。肺気腫や慢性気管支炎といった病気の総称です。

COPDの原因は9割がタバコです。喫煙者の2割が発症するとされています。吸い始めて20～30年後に発症するとも言われています。

最大の予防策は、禁煙！！タバコは肺の機能低下を加速させますが、早くやめるほど発症のリスクは低くなります。発症した場合は、薬物療法で治療します。息切れなどの症状が改善し、機能低下の抑制などに効果があります。早期に発見して治療することが重要です。

国民の認知度は11年が25%で、診断が進まない要因となっています。



インフルエンザによる出席停止期間の基準が変更されました。

これまでは、「解熱後2日が経過するまで」でしたが、それに加え「発症後5日が経過していること」も条件になりました。

※インフルエンザによる学校の出席停止期間は、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては3日）を経過するまで

学校保健安全法施行規則第十九条 2012年4月1日改正



(社) 浦安市薬剤師会 〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812 (月～金: 10～15時)

Fax 047-355-6810

メールアドレス toiawase@urayaku.jp

ホームページ <http://www.urayaku.jp/>

「まちのくすりやさん」に関するご意見ご要望をお寄せ下さい。お待ちしております。